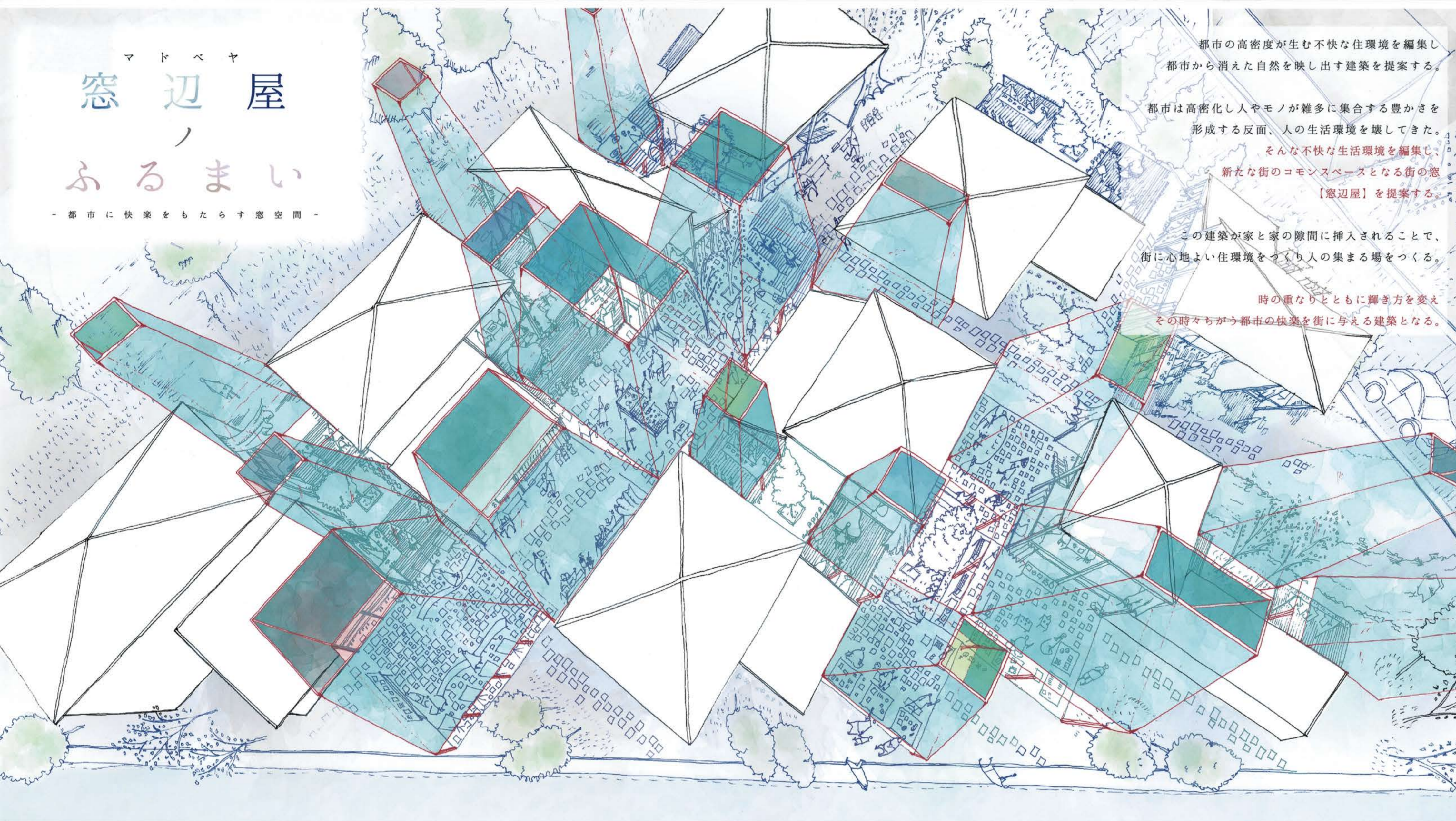


窓辺屋

マドベヤ
ふるまい

— 都市に快樂をもたらす窓空間 —

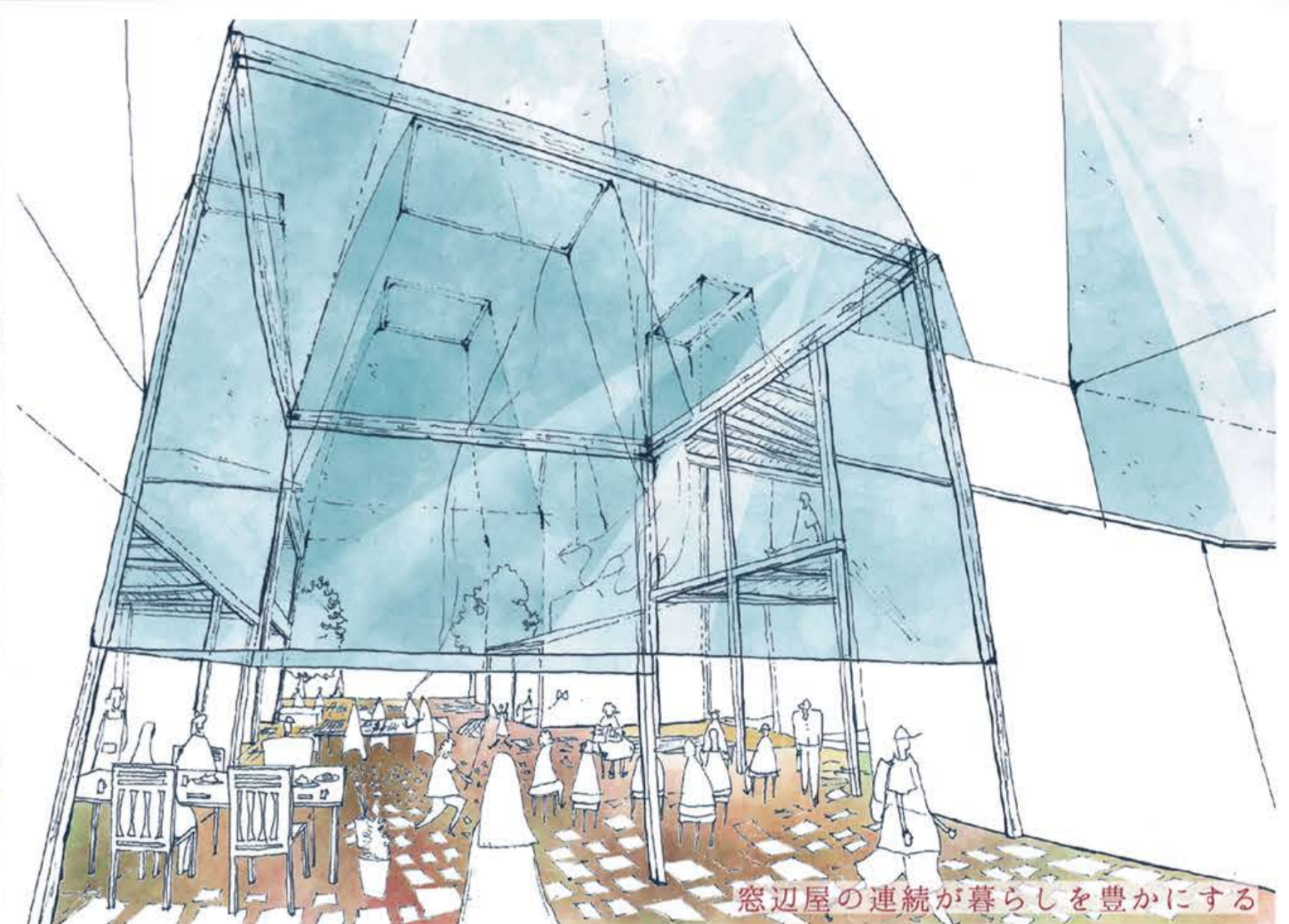


都市の高密度が生む不快な住環境を編集し都市から消えた自然を映し出す建築を提案する。

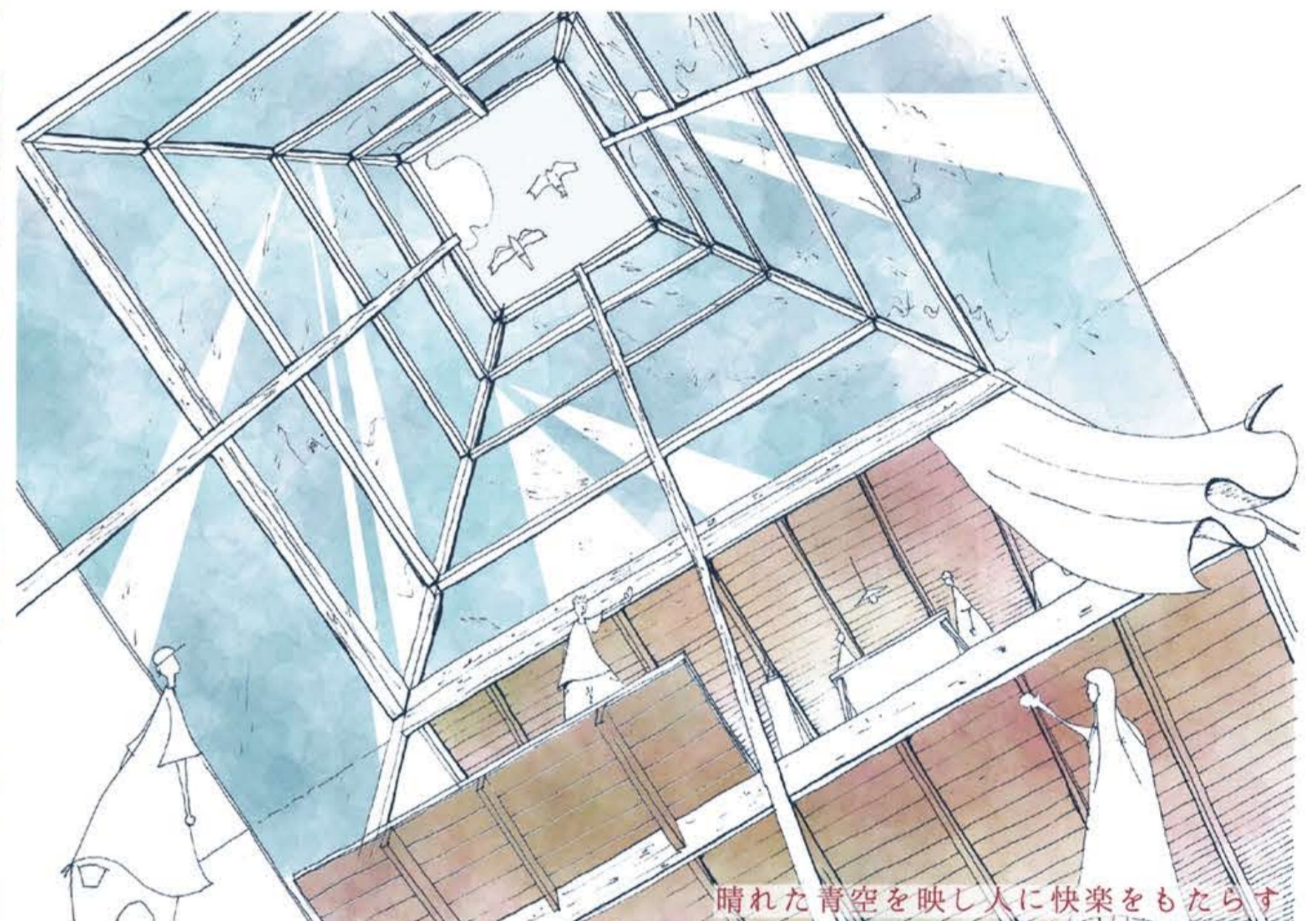
都市は高密度化し人やモノが雑多に集合する豊かさを形成する反面、人の生活環境を壊してきた。そんな不快な生活環境を編集し、新たな街のCOMMONスペースとなる街の窓【窓辺屋】を提案する。

この建築が家と家の隙間に挿入されることで、街に心地よい住環境をつくり人の集まる場をつくる。

時の重なりとともに輝き方を変え、その時々が街の快樂を街に与える建築となる。



窓辺屋の連続が暮らしを豊かにする



晴れた青空を映し人に快樂をもたらす

1. 都市の不快な住環境【窓の無機能化】 Background

都市の高密度がもたらす窓の無機能化
都市には人が集まりそして家が集まる。家が高密度に集められることで人が集まる豊かなコミュニティが生まれる反面、不快な住環境が生まれる。窓に着目すると、家が高密度に集められることにより採光や通風といった窓が持つ機能を失い都市ならではの「窓の無機能化」というデメリットが発生する。

2. 谷中の機能を失った窓 Site and Concept

窓が密に集まる街 - 谷中 / 東京 -
東京の中にある、木造密集地「谷中」を計画の舞台とする。谷中は古くから立ち続ける木造家屋が高密度に立ち並び小さな裏路地や家と家の隙間の中で住民たちの井戸端会議が聞かれる反面、各住戸内の環境は採光や通風が取れないなど、窓が窓として機能しない街である。本計画は、そんな機能を失った谷中の窓を編集し、古き良き街の風景を維持しながら窓を機能させる窓空間を挿入し大都市の木造密集地に住もう快樂をつくる。

6. 窓辺屋がつくる快樂 Section

多方向にある窓辺屋から通風・採光・賑わいを取り込む

ガラスの筒が温められ空気が循環する

晴れ・曇り・雨

気候情報：晴 曇 雨

築20年：木

窓辺屋スケール：[Icon]

3. 木密における窓機能の編集 Diagram

3-1 窓辺屋の挿入

隣棟間隔の小さい木造密集地において採光と通風を取るはずの窓は機能しない

住戸同士の隙間に窓としての機能を持つ建築【窓辺屋】を付加させる

【窓辺屋】は従来の窓の機能を持ちつつコミュニティツールとして機能する

煙突効果で通風をとる

強化ガラス

4. 時とともに変化する窓辺屋

0 years

20 years later

キズ ヨゴレ ヒビ

マテリアルを厚みのあるガラスで構成される窓辺屋は、時の重なりとともに輝き方を変化させていく。窓辺屋が長く街に置かれることでキズやヒビが光の屈折を変化させ、多様な輝き方を生む。窓辺屋が住空間に挿入されることで、光の変化と生活することは一つの都市に住む快樂である。

3-2 隙間と呼応する窓辺屋

750mm: 小さな隙間では環境装置としてのみ機能する。昼は採光・光のダクト、夜は漏れる光から光を得る。

1500mm: 1500mmの幅の中では人の導線として機能する。ここで井戸端会議が始まる。

3000-5000mm: 小さな路地空間では生活が表出される。周辺の生活が窓辺屋を彩る。

5. 季節・気候を映す窓辺屋

晴れ → 曇り → 雨

春 → 夏 → 秋 → 冬

様々な自然環境を映す

よりミクロな時間軸で見ると窓辺屋は、晴れや雨といった一日ごとの天候、また秋の夕暮れや冬の降雪といった季節ごとの気候といった自然環境を映すスクリーンとして機能していく。人や建築物の密集によって自然を感じにくい都市において、窓辺屋は自然環境を映し体感する場として都市の中に生き続ける。

晴れ 雨 夕暮れ 雪

晴れ・曇り・雨

晴れ・曇り・雨

ここにしかない自然の中で井戸端会議が始まる

自然環境を映し空間を彩る